

I 第41週の発生動向 (2014/10/6~10/12)

1. 感染性胃腸炎については、患者報告数が前週の69人から78人に増加し今後の発生動向に注意が必要です。
2. 水痘については、むつ保健所管内で新たに**注意報**が発令されました。

II 第41週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、**警報・注意報**については青森県感染症発生動向調査 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		前週からの増減	東地方(再掲)		青森市(再掲)		
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点	
小児科 内科	(90)	インフルエンザ													0					
小児科	(79)	RSウイルス感染症	2	0.3	2	0.2	1	0.1			3	0.5	1	0.3	9	0.2	-1		2	0.3
	(80)	咽頭結膜熱			1	0.1								1	0.0	-4				
	(81)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	0.6	8	0.9	13	1.3			5	0.8	5	1.3	36	0.9	-7		5	0.6
	(82)	感染性胃腸炎	30	3.8	5	0.6	29	2.9	4	0.8	1	0.2	9	2.3	78	1.9	9		30	3.8
	(83)	水痘	2	0.3	5	0.6	2	0.2	1	0.2	9	1.5	17	4.3	36	0.9	8		2	0.3
	(84)	手足口病	7	0.9	2	0.2									9	0.2	3		7	0.9
	(85)	伝染性紅斑	1	0.1	1	0.1	9	0.9							11	0.3	0		1	0.1
	(86)	突発性発しん	5	0.6	3	0.3	10	1.0			7	1.2			25	0.6	12		5	0.6
	(87)	百日咳															-3			
	(88)	ヘルパンギーナ	5	0.6	2	0.2			2	0.4	1	0.2	6	1.5	16	0.4	8		5	0.6
(89)	流行性耳下腺炎			1	0.1	2	0.2					3	0.8	6	0.1	2				
眼科	(91)	急性出血性結膜炎														0				
	(92)	流行性角結膜炎														-2				
基幹	(97)	クラミジア肺炎														0				
	(98)	細菌性髄膜炎														0				
	(100)	マイコプラズマ肺炎					1	1.0					3	3.0	4	0.7	1			
	(101)	無菌性髄膜炎														0				
(82)	感染性胃腸炎(ロタウイルス)														0					

は警報、は注意報。「空欄」:患者発生無し。

III 全数把握疾患(掲載数は最新情報)

(9) 結核(二類全数把握疾患): 東地方+青森市2人、弘前4人、八戸1人、上十三1人 (2014年計:299人)

IV 病原体検出情報 ※ () 内は、検査材料及び検体採取日、検出数です。

- ・ヘルパンギーナ(咽頭ぬぐい液、8/17)・・・ライノウイルスC:弘前(1)
- ・下気道炎患者(鼻汁、咽頭ぬぐい液、8/14~9/18)・・・RSウイルス(RSV)A型:弘前(5)、ライノウイルスA:弘前(2)、ライノウイルスC:弘前(2)、ライノウイルスAおよびRSV-A型:弘前(1)、ライノウイルスCおよびRSV-A型:弘前(1)、ヒトメタニューモウイルス:弘前(3) パラインフルエンザウイルス1型:弘前(1)、パラインフルエンザウイルス3型:弘前(1)

感染症の窓

突発性発疹 (五類定点把握疾患)

突発性発疹は、主にヒトヘルペスウイルス6、7型を病原体とする乳幼児の疾患で、別名『突発性発疹』とも呼ばれます。感染症発生動向調査によると、報告症例の年齢は0歳と1歳でほとんどを占めており、それ以上の年齢の報告はまれです。本県における平成25年(2013年)の年齢別患者報告数でも、1歳以下の年齢層が大部分を占めていました(図1)。

潜伏期間は約10日で、突然の高熱(3~4日前後持続)を認め、解熱に前後して発疹が出現します。発疹は1~2日で消失します。

季節性はなく、毎週の定点当たり報告数はほぼ一定で、年次による差異もほとんどありません。平成25年(2013年)の全国における発生状況は、年間を通じて、定点あたり患者報告数が0.5人程度で増減を繰り返して

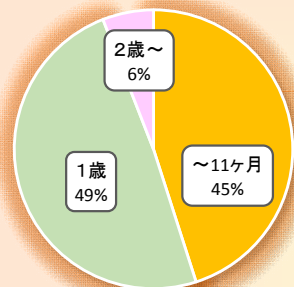


図1 年齢別患者報告数割合 (N=879) (2013年)

ましたが、青森県においても概ね同様の傾向でした(図2)。

青森県環境保健センターにおける病原体調査では、指定届出医療機関における検体から平成25年1月から9月にかけて、ヒトヘルペスウイルス6型、7型が検出されました。

多くは生後初めての高熱となるので、ご両親の不安は大きいことですが、通常、予後良好のため、対症療法にて経過観察するのみであり、特に予防が問題となることはありません。ただし、まれに脳炎、脳症、肝炎などの合併もあることから、疑わしい症状が現れた場合には早めに医療機関を受診しましょう。【参考】IDWR「感染症の話」

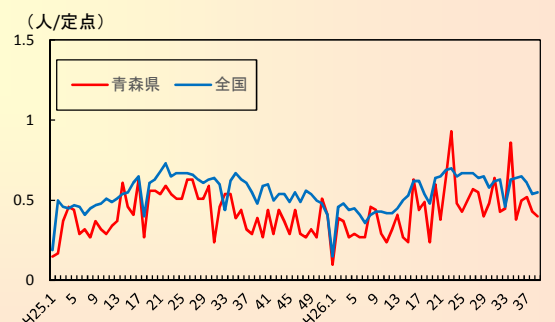


図2 定点当たり報告状況(H25年第1週~H26年第39週)(週)

V 保健所管内別全数把握疾患発生状況（2014年第25週～第41週）

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
25	H26.6.16 ~ H26.6.22			アメーバ赤痢1人 侵襲性肺炎球菌感染症1人		つつが虫病1人	
26	H26.6.23 ~ H26.6.29	つつが虫病1人					
27	H26.6.30 ~ H26.7.6		侵襲性インフルエンザ 菌感染症1人		腸管出血性大腸菌 感染症1人 つつが虫病1人		
28	H26.7.7 ~ H26.7.13			腸管出血性大腸菌 感染症1人			
29	H26.7.14 ~ H26.7.20	A型肝炎1人 クロイツフェルト・ヤコ ブ病1人	E型肝炎1人				
30	H26.7.21 ~ H26.7.27						
31	H26.7.28 ~ H26.8.3	梅毒1人		腸管出血性大腸菌 感染症1人		腸管出血性大腸菌 感染症2人	
32	H26.8.4 ~ H26.8.10	A型肝炎1人 レジオネラ症1人					
33	H26.8.11 ~ H26.8.17	腸管出血性大腸菌 感染症4人					
34	H26.8.18 ~ H26.8.24			腸管出血性大腸菌 感染症1人		腸管出血性大腸菌 感染症1人 後天性免疫不全症候 群1人	
35	H26.8.25 ~ H26.8.31						
36	H26.9.1 ~ H26.9.7	デング熱1人	腸管出血性大腸菌 感染症1人		腸管出血性大腸菌 感染症1人	腸管出血性大腸菌 感染症1人	
37	H26.9.8 ~ H26.9.14					腸管出血性大腸菌 感染症1人	
38	H26.9.15 ~ H26.9.21						
39	H26.9.22 ~ H26.9.28					腸管出血性大腸菌 感染症1人	
40	H26.9.29 ~ H26.10.5		レプトスピラ症1人			腸管出血性大腸菌 感染症2人	
41	H26.10.6 ~ H26.10.12						

VI 結核(二類全数把握疾患) (2014年第31週～第41週)

単位：人

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
31	H26.7.28 ~ H26.8.3	3	1	7			
32	H26.8.4 ~ H26.8.10		5	4	1		
33	H26.8.11 ~ H26.8.17		1	4		2	
34	H26.8.18 ~ H26.8.24	2	2	6	1		
35	H26.8.25 ~ H26.8.31	1	2	12	1	1	
36	H26.9.1 ~ H26.9.7	1	5	3		1	
37	H26.9.8 ~ H26.9.14	3	3	7	1	1	
38	H26.9.15 ~ H26.9.21		1	4	1	1	
39	H26.9.22 ~ H26.9.28		1	3	1	2	
40	H26.9.29 ~ H26.10.5	1	2	3			1
41	H26.10.6 ~ H26.10.12	2	4	1		1	

VII 全数把握疾患発生状況(全国-青森県)

(注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています)

全国

(2014年第1週～第39週累計)

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	Eキノコックス症	オウム病	回帰熱	Q熱	コクジアイデス症	重症熱性血小板減少症候群	チンクニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	ブルセラ症	ボリリス症	マラリア	野兔病	ライム病
累積報告数	19122	3	84	3408	40	14	108	400	15	8	1	1	1	56	10	115	292	160	2	10	1	51	1	10
分類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性リンパ球感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	パノコマイン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	水痘(入院例)	播種性クリプトコックス症	薬剤耐性アシネトバクター感染症	
累積報告数	914	24	827	180	358	85	127	205	1126	46	149	26	1290	8	1213	101	38	285	445	12	8	2	1	

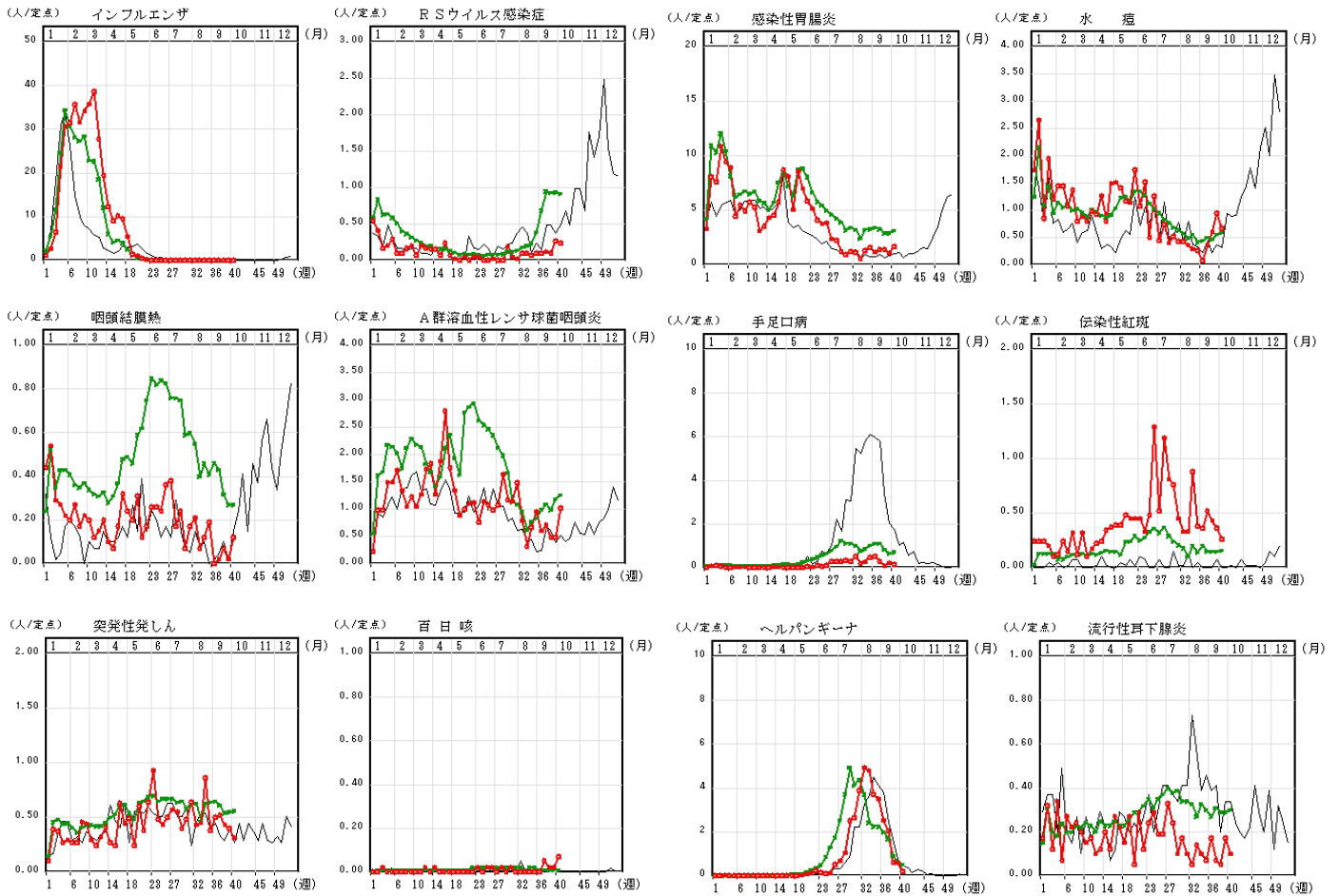
青森県

(2014年第1週～10月15日9:00累計)

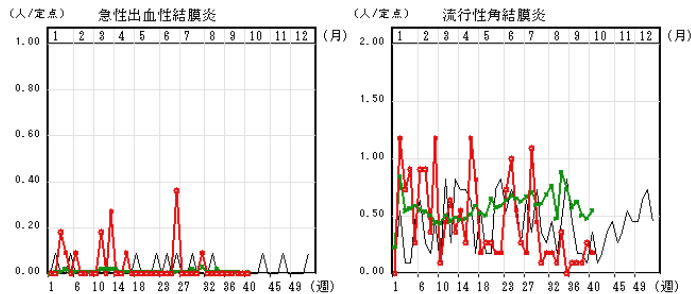
分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	デング熱	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性リンパ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	梅毒	破傷風				
累積報告数	299	18	2	3	10	1	3	1	6	8	1	1	3	1	6	4	1				

VIII インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移 (2014年第40週)

グラフの説明 ○—○は2014年青森県、——は2013年青森県、×—×は2014年全国



IX 眼科定点把握疾患週別推移 (2014年第40週)



X 基幹定点把握疾患週別推移 (2014年第40週)

